

中手子林の八幡様と

はちまんさま

弓術の名人伝左衛門

でんざゑもん

江戸時代の中頃のむかしの話です。

弓術の名人塚田伝左衛門は、日本一を競う三十三間堂通し矢大会に出場することにしました。

伝左衛門は、若い頃から百発百中の腕前を持ち、人一倍好奇心が強くて、「日本一」は小さい時からの夢でした。毎日風を切る弓音を「ヒューン、ヒューン」と鳴りひびかせて、一心不乱の稽古です。

いよいよ大会が明日という夜半、夢枕に白髪の仙人があらわれお告げがありました。

「己の天邪鬼を払われよ、されば必ず日本一になることができますぞ」「はい」と、自分の大きな声で目をさました。あくる日も不思議なお告げが頭から離れません。

お告げ通り待ちに待った大会は、日本一を手にして堂々辺地の里羽生邑に錦を飾りました。その後、夢枕に立った仙人は乾の方角にある中手子林の八幡様の化身であったといわれ、お札に石垣と石像の天邪鬼を寄進し、大会に使った弓と矢を奉納しました。今でも大切に拝殿に保存し八幡



様の宝物にしています。

村の子供たちが遊びにきては、「あまのじゃくふんづぶせ」「あまのじゃくふんづぶせ」と、天邪鬼の石像を埋めた上を踏みつけ、楽しく遊びながら幸せな成長のお守りのようにしています。

日本一になってからの伝左衛門は、弓術やぶの名人として三十年余りも諸国をめぐり歩き、仙台(東北)で病気のため五十四才の生涯を空しく閉じました。弓きゅう譽よ廻かい順じゆん信しん士しとなつた伝左衛門は、きつと八幡様のご神体と共に静かに村人たちを見守っていることでしょう。

◎昔は夢というものに不思議なほど信仰をよせたものです。

※天邪鬼 人に逆らい、人の邪魔をする悪者

